

木古内小が最優秀賞、中学校は優秀賞

大舞台で最高の演奏

日本管楽合奏コン

【木古内】吹奏楽の全国大会「第16回日本管楽合奏コンテスト」がこのほど、東京の文京シビックホールで開かれ、木古内小学校が最優秀賞、木古内中学校は優秀賞をそれぞれ獲得した。全国の大舞台で「木古内サウンド」を響かせ、町民の期待に応える演奏を堂々と披露した。ダブル出場の快挙を果たし、入賞したことで町民は喜びに沸いている。両校の児童、生徒は「本番では練習通りの演奏をすることができた」と入賞の喜びを語った。(松宮一郎)

「練習通り」「大会楽しんだ」



日本管楽合奏コンテストで入賞した木古内小、中学校の吹奏楽部の代表

コンテストは、財団法人日本音楽教育文化振興会の主催。両校は予選のテープ審査を勝ち抜き、初出場を果たした。木古内小は7日、「小学校の部」(30校)に出場。J・バーンス作曲「ペーガンダンス」を演奏し、最優秀賞11校のうち1校に選ばれた。部長の嶺井千奈さん(6年)は「大会を思いっきり楽しむことができた。気持ち

ちのこもった音が審査員に伝わったと思う。この経験をこれからにつなげいきたい」と笑顔。顧問の野原一郎教諭は「緊張していたと思うが、いい演奏をしてくれた」とたたえる。

木古内中は大会初日の10月30日に「中学校小編成の部」(35人以上)「(18校)」に出場した。演奏した曲はR・グリエール作曲「青銅の騎士」。部長の金川夏希さん(2年)は「いままでお世話になった人たちへの感謝の気持ちを込めた『まごころの演奏』をすることができた」と大会を振り返る。顧問の中條淳也教諭も「指揮棒を振りながら、生徒たちの演奏に感動していた」と満足そうに話す。

大会終了と同時に3年生が引退。これから部を引っ張る金川さんは「ひとつひとつのコンクール、演奏会を大切にしていきたい」と意気込みをみせていた。

9日には両校の代表が大森伊佐緒町長のもとを訪れ、結果を報告した。児童と生徒は「町のみなさんの応援があったからこそ、頑張ることができた。ありがとうございました」とあいさつし、大会の様子などを詳しく語った。大森町長は「みなさんの練習の音は町長室にも響いている。結果は練習のたまもの。全国の舞台でよく頑張った」と入賞をたたえていた。